

平成十一年度 帯広市

文化賞
文化奨励賞

帯広市教育委員会

帯広市文化賞受賞者紹介



なか や ゆう いつ
中 谷 有 逸
(63歳)

《受賞理由》

氏は、昭和47年（1972年）北海道立帯広柏葉高等学校に美術教師として着任し、教鞭をとられる傍ら、地域の美術活動に積極的に参画されました。

昭和50年（1975年）には、平原社美術協会会員となり、今日の組織の基礎を築いてこられました。その後、事務局長、会長を歴任し、会員会友の資質向上とともに、工芸分野の創設、美術愛好家の育成に努められました。また、現代絵画の方向性をとらえ、協会の未来を志向する指導力を発揮されました。

一方、地域の美術活動の中心的存在として、旺盛な創作活動を展開してこられ、数多くの美術展で賞を受けておられます。特に、版画家として「凹凸併用版」という独特の手法を生みだし、高い評価を受けておられます。

このような氏の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略 歴》

- 昭和11年 札幌に生まれる
- 昭和33年 北海道教育大学札幌校卒業
- 昭和37年 道展会員となる
- 昭和47年 北海道立帯広柏葉高等学校に美術教師として着任
- 昭和49年 モダンアート協会会員となる
- 昭和50年 平原社美術協会会員となる
- 昭和62年 帯広市文化奨励賞受賞
- 平成8年 北海道立帯広柏葉高等学校を退職し、現在に至る

帯広市文化奨励賞受賞者紹介



なかやまみんぞくぶようけんぎゅうしょほっかいどうしぶ
中山民俗舞踊研究所北海道支部

昭和40年6月23日設立（35年）

《受賞理由》

昭和40年（1965年）同支部の前身となる「帯広民舞会」が中山義嘉会長を中心とする17名により発足しました。当初『名取』であった会長が『師範』に昇格し、新名取6名の誕生に合わせ、同年「中山民俗舞踊研究所北海道支部」が誕生しました。会員は26名でした。その後順調に会員が増え続け、昭和50年には400名、現在は、1,000名を超える会員を擁しておられます。会員は、「健康に老いる」を合い言葉に、素朴な輪踊りを楽しみながら、研鑽を積んでおられます。

支部の活動は、今年で35年目を迎えました。この間、日本民族伝来の舞踊の向上と研修を重ねて踊り続けてこられました。また、地域の祭りはもちろん、各種行事などで積極的に参加し、踊りを披露してこられました。

これまでに育った多くの指導者は「親睦と健康」を信条とし、町内会、婦人会、老人会など老若男女の別なく、毎日のように踊ってこられました。

このような支部の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に寄与するとともに、今後の活動も大きく期待できるものであるため、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略 歴》

昭和39年 中山義嘉会長、名取となる

昭和40年 帯広民舞会発足

同 年 中山義嘉会長の師範昇進を機に、中山民俗舞踊研究所北海道支部となる